

川の再生の取組について



「川」は「河川」、「農業用水」、「湖沼」などを
含みます

水辺再生100プランから
川のまるごと再生プロジェクトへ



鴨川（上尾市）



白子川（和光市）

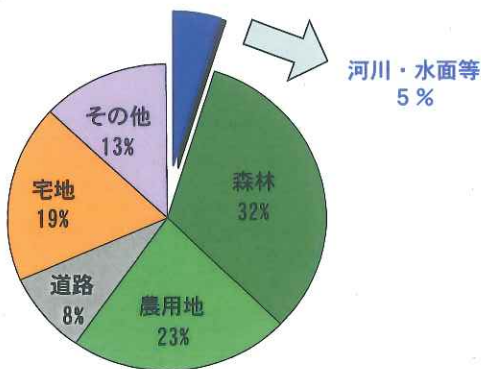
埼玉県県土整備部水辺再生課 総合調整・地域連携担当 主幹 田島 清志



埼玉が持つ「川のポテンシャル」

NO.1

土地利用形態別の面積割合



県土に占める水面の面積割合 5%（全国第4位）
河川面積の割合は **3.9%（日本一）**
（「水の都」大阪府は3.8%で第2位）



埼玉県の戦略



川の国 埼玉

他にまさる
ポテンシャルの活用



川の再生 基本方針(目標・基本方向)

県民誰もが川に愛着を持ち
ふるさとを実感できる
「川の国 埼玉」の実現

地域による持続的・自立的な
改善行動・維持管理活動

清流の復活

水環境の改善
(水質・水量)

川の浄化
ムーブメント

川の
再生

基本方向
循環的・持続的な
ムーブメント

安らぎと賑わいの 空間創出

自然や親水機能
の保全・創出

水辺の魅力
創出・発信

埼玉が持つ 川のポテンシャル



川の再生の4つのポイント

ポイント1

自然や親水機能の保全・創出

- 多自然川づくり
- 親水機能を持った護岸や遊歩道の整備



黒目川(朝霞市)



槻川(東秩父村)

ポイント2

水辺の魅力創出・発信

- 地域イベントに合わせた護岸の整備
- 川を活用したイベントの開催



新河岸川(川越市)



忍川(行田市)

ポイント3

水環境の改善(水質・水量)

- 河床に堆積したヘドロの浚渫
- 水質浄化のための導水や家庭の生活排水対策



バックホウ浚渫



菖蒲川・笹目川浄化導水

ポイント4

川の浄化ムーブメント

- 川の再生交流会や出前講座の開催
- 川の国応援団など地域住民による活動



出前講座



川の美化活動



川のまるごと再生プロジェクト(H24～H27)

基本コンセプト

- ①一つの市町村若しくは複数の市町村を流れる川を、上流から下流までまるごと再生する。
- ②市町村のまちづくりと連携して面的な広がりを持たせる。
- ③川や地域の特性に応じたテーマを定めて取り組む。

【イメージ】



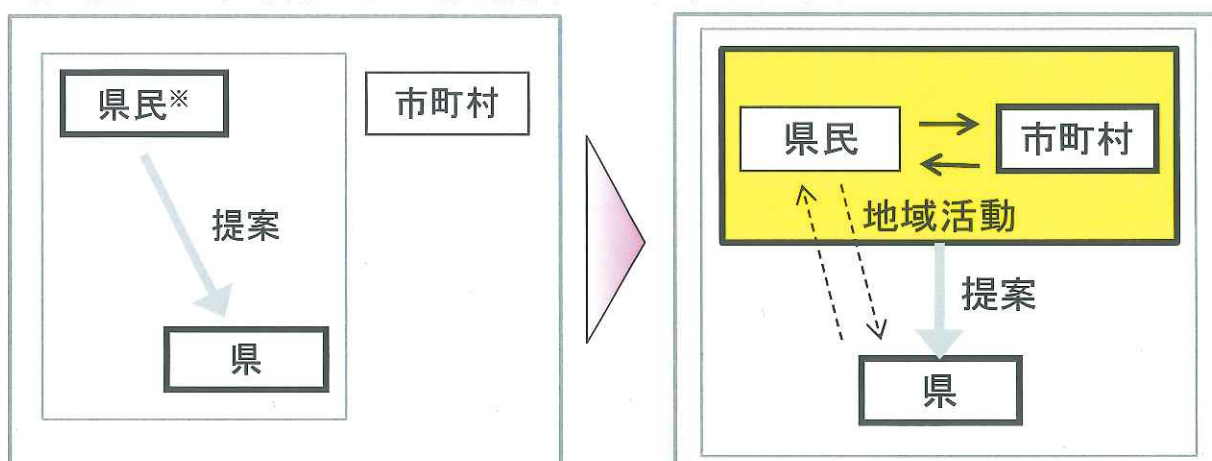
◆県、市町村及び地域の取組例

県	親水護岸整備、遊歩道整備、河原の再生 など
市町村	公園など拠点施設の整備、観光施設の整備、案内板やまちなかの散策路整備、下水道や合併処理浄化槽への転換 など
地域	維持管理活動(美化活動)



県民提案から地域提案にステップアップ

水辺再生100プランの県民提案から
地域住民と市町村からの地域提案にステップアップ



平成24年度
募集結果

募集期間：平成24年5月29日～平成24年7月5日

応募主体：市町村

応募要件：①「川の国埼玉 川の再生基本方針」に合致する

「川の再生」に係る提案であること。

②一級河川（県管理）または農業用水路、排水路（湖沼を含む）であること。

③市町村が自ら実施する取組が含まれること。

④市町村と地域住民が連携した取組が含まれること。

⑤地域が主体となって川の維持管理活動を行うこと。

提案数：13市町、15提案、12の川（河川8、農業用水4）



公開プレゼンテーションの開催

平成24年8月4日（土）埼玉県県民健康センター
公開で「川の国埼玉 川の再生懇談会」委員から提案内容に対する意見聴取



市町村職員と地域住民が協働で提案内容をアピール
→「日本では初めての試みだと思う。関係者は誇りを持って次のステップに進めてほしい」（菅座長）



17の川を選定(平成24・25年度着手分)





川のまるごと再生プロジェクトの代表事例

NO.10

(代表箇所:黒目川／新座市、朝霞市)

県が行う内容



草が生い茂り
川沿いを歩けない

整備前

- ・川沿いの遊歩道整備
- ・水辺に近づくための親水護岸整備
- ・生物の生息環境に配慮した護岸整備 等

川沿いの遊歩道
の整備



整備後

健康長寿プロジェクト
実施箇所の膝折団地

新座市が行う内容



自然を
楽しみたいけど
歩きにくい

整備前

～地域資源をいかし、市域全体を
フィールドミュージアムとするまちづくり～

- ・湧水・斜面林を保全・活用、広場の整備
- ・川沿いに健康遊具を設置
- ・公共下水道の整備 等



整備後

湧水や斜面林を守りなが
ら散策できる木道の整備



(特徴1) 住民と行政の協働体制づくり

NO.11

すべての再生箇所ではワーキングチームを設置
地元自治会、関係団体、市町村、県の協働作業



【会議室では自由に意見交換】



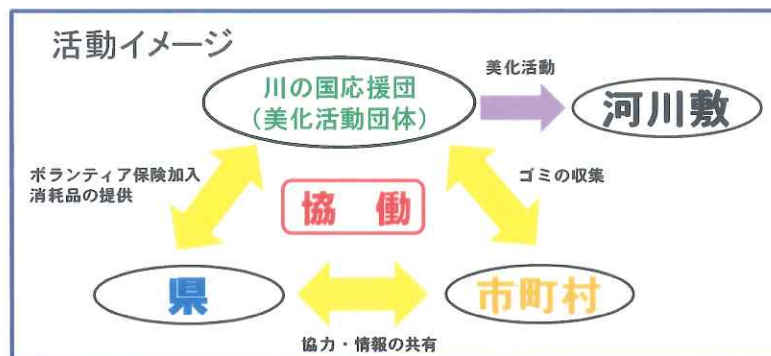
【現地では川の現状を把握】

○プランづくりから工事中の現場確認まで住民と協働
→地域の方々の思いを整備内容に詰込む



(特徴2) 地域住民の参加

- 川の国応援団（美化活動団体）・・・川の美化活動をするボランティア団体
 【対象】県管理河川 100m以上、5人以上



川の再生で活動は活発になりました！

	H19.3		H26.3
団体数	49	約7倍	336
人数	3,762	約5倍	18,746
活動延長(km)	114	約4倍	462



川の国応援団(美化活動団体)のことは

ふりかえれば、何か地域が一つになる活動をしたいと思った、そのとき、たまたまそこに川があったのだと思う。

美化活動をとおして、地域が一つになることに幸せを感じている。こうした思いにさせてくれた「川」に感謝したい。

現代生活は、慌ただしく急ぎすぎている。ゆっくりとした生活をもっと楽しむべきだ。

まちでゴミを捨てる人を見かけると、注意しなくなる。自分は絶対にゴミのポイ捨てはしない。



川をきれいにするとすっきりする。心が洗われる。その後、家に帰るといつもよりも部屋が散らかっていることが気になり、掃除がしたくなった。

最初はつらいけど、環境がきれいになって、自分の心が洗われて、仲間ができる、訪れる人も増え、地域の人々の心の癒しになっている。一石四鳥だ。



川の再生の取組に対する県民意識の変化

◇県政世論調査の結果(%)

○「みどりと川の再生」の取組の認知度

知っていた		
H20	H24	増減
22.9	33.0	10.1

○川の再生の取組に対する評価

よい		
H22	H24	増減
54.9	69.1	14.2

◇水辺再生100プランのアンケート結果(%)

○近くの川の評価（水がきれい）

そう思う		
整備前	整備後	増減
10.3	26.2	15.9

【県政世論調査結果】

そう思う		
H20	H24	増減
18.5	25.5	7.0

○近くの川の評価（水辺の景観がよい）

そう思う		
整備前	整備後	増減
27.4	58.6	31.2

【県政世論調査結果】

そう思う		
H20	H24	増減
21.9	28.7	6.8

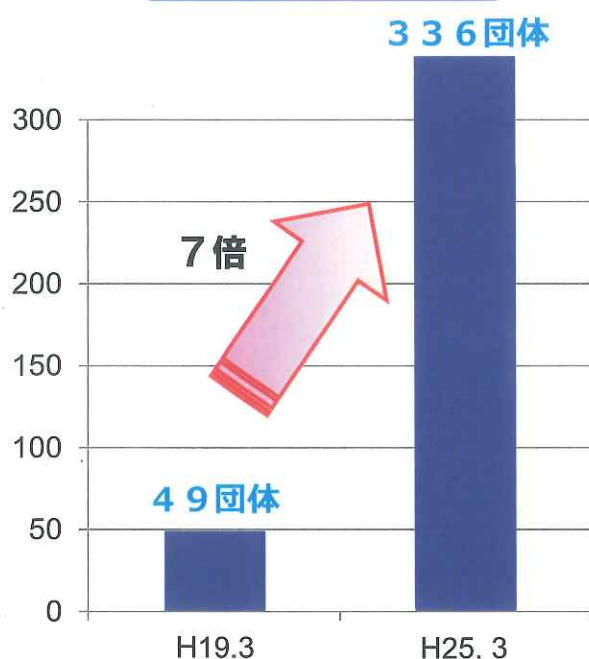


(成果) 川の再生ムーブメントの広がり

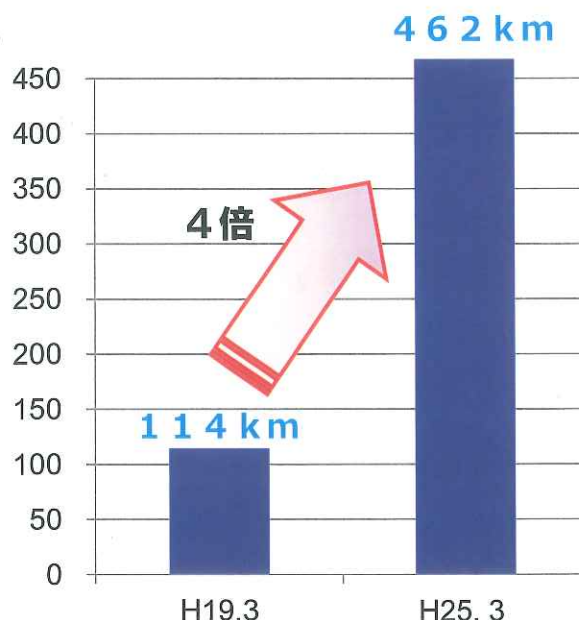
○川の国応援団（美化活動団体）は約7倍に増加

○活動延長も114kmから462kmに増加

団 体 数



活動延長



287
550km
2013年

—河川空間のオープン化による地域活性化—

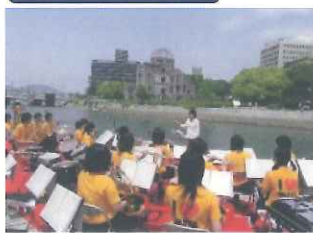
- オープンカフェ



京橋川／広島県



那珂川／福岡県

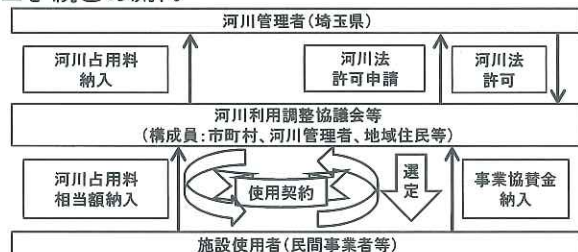


太田川／広島県



多摩川／神奈川県

- ## ■手続きの流れ



○河川占用料

	区分	占用施設の例	占用料
1	建物の敷地の用に供する土地	飲食店、売店、オープンカフェ等	年額 360円/㎡
2	工作物の敷地の用に供する土地	移動販売車、簡易販売施設(テント、屋台等) 自動販売機、飲食店等に付帯する軽易な設置物(イス、テーブル等) イベント施設、洗い場、便所等	年額 160円/㎡
3	河川敷地を原形のまま占用させる土地	広場、キャンプ場、バーベキュー場及びこれらに附属する駐車場等	年額※ 1500円/a

※1a(アール)=100㎡、端数はa単位で切り上げ

都幾川と入間川にバーベキュー場

○オープン当日の様子

①ときがわ町 川の広場（都幾川）



- ・利用人数
約200人
- ・流しそうめん
約 50人
- ・力又一体験
約 50人



流しそうめん

① 表



力又一体験

利用者の感想

- ・流しそうめんは楽しくておいしかった。(女兒)
- ・地元なので以前からの場所は知っていたが初めて友達を呼んで利用した。また、来たいし、多くの方に利用いただきたい。(ときがわ町男性)



②飯能市 弁天河原河川広場（入間川）



- ・利用人数
約230人
- ・魚のつかみ取り
約100人



第一
主



魚のつかみ取り

■ 利用者の感想

- ・ 初めて魚のつかみ取りができて楽しかった。
(小学生)
- ・ 夢馬（むーま）ちゃんと一緒に写真が撮れてよかった。（所沢市男児）
- ・ 新聞を見て初めて来ました。水深も浅く子供を遊ばせるには安心でした。河原もきれいで最高です。
(さいたま市女性)
- ・ ボート遊びが楽しかった。（桶川市園児）



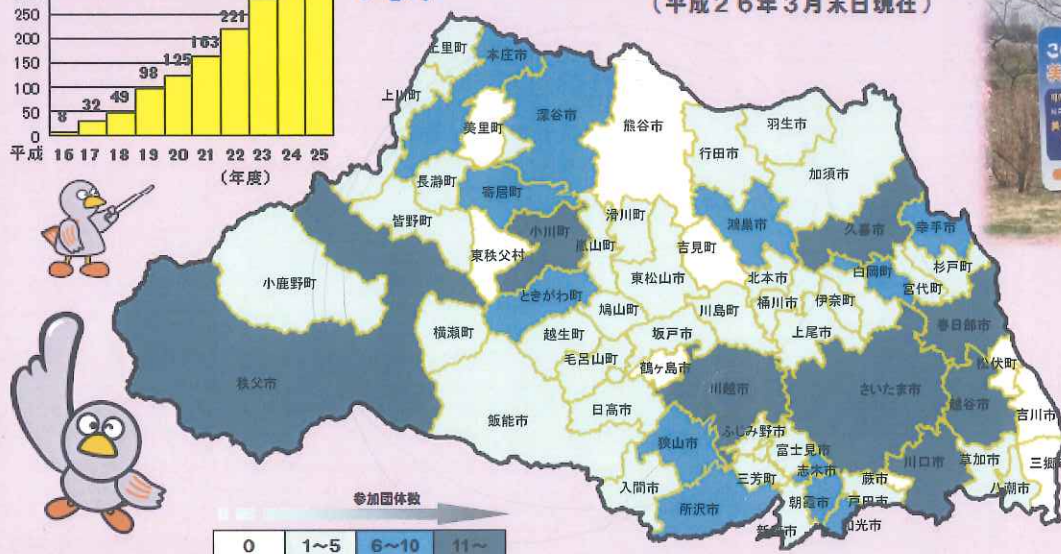
川の国広援団(美化活動団体)の拡大について

制度概要

- 川の国広援団(美化活動団体)とはボランティアで河川の美化活動を行っていただく団体です。
- 加入条件は県が管理する河川100m以上で美化活動を行う5人以上の任意の団体です。



● 54市町で「川の国広援団美化活動団体」が活動しています
(平成26年3月末日現在)



- 県は軍手・ビニール袋の支給、ボランティア保険の加入を行います。
- 市町村は収集したごみの処分を行います。
- 特典として①1年間活動した団体には県が活動河川に「団体名入りの看板」を設置します。
②5年間活動した団体は知事から「感謝状」を贈呈します。



全市の17%

埼玉県河川図

